

ソーシャルワーク実習における実習日誌の考察文章作成支援システムの開発と形成的評価

Development and formative evaluation of a system to support the writing of reflective texts for practice diary in social work practice.

坂本 毅啓^{*1}, 佐藤 貴之^{*1}, 中原 大介^{*2}
 Takeharu SAKAMOTO^{*1}, Takayuki SATO^{*1}
^{*1}北九州市立大学
^{*1}The University of Kitakyushu
^{*2}福山平成大学
^{*2}Fukuyama Heisei University
 Email: s-takeharu@kitakyu-u.ac.jp

あらまし：社会福祉士養成教育におけるソーシャルワーク実習で作成する実習日誌考察欄の文章作成を支援するシステムを、Google Apps Script で作成をし、形成的評価を行った。その結果、初学者で書き慣れていないと助かる、実習経験と専門的知識を結び付けることができる等の専門性の獲得に有効である等の評価が示された。一方でスマートフォンでは文字入力が煩わしい、作成された文章に違和感がある等の改善点が示された。

キーワード：福祉教育、ソーシャルワーク実習、実習記録、形成的評価

1. はじめに

2020年からの新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染拡大の影響から、ソーシャルワーク教育(福祉専門職教育)においてもICTの活用が推進されてきた。これに伴い福祉臨床現場で学ぶソーシャルワーク実習でも実習記録の電子化が進みつつある^[1]。

このような状況の中、筆者らは実習記録のICT活用について検討を行った上で、eポートフォリオとして必要とされる機能について整理を行った。さらに、先述したようなシステムの登場も踏まえ、実習日誌に含まれる実践の考察欄に記述する文章の作成を、Webフォームの質問に応える形で必要事項を入力することで、自動的に考察文を生成するシステムを構想した^[2]。本研究では、構想したこのシステムを開発し、協力者にモニタリングをしてもらい、教材として評価を行った結果について報告する。その上で、ソーシャルワーカーとしての専門性を高めることに寄与できるシステムであることを目指す。

2. 実習記録の教育目的と意義

実習指導において、「実習記録ノート」(実習記録)の内容と方法について理解することが教育目的に掲げられており^[3]、あわせて実習記録を活用して指導を進めることも求められている^[4]。「実習指導ガイドライン」には、実習記録の意義・書き方・取り扱いについて理解することを目的として挙げている^[5]。

実習記録を書く意義は、①「支援活動の内容と結果(影響・成果)を資料として蓄積すること」^[6]を目的とした「対人援助専門職としての活動を支えるスキル」^[7]の獲得、②実習前・中・後におけるコミュニケーションツール^[8]として活用、以上2点を挙げる

ことができる。

本稿で着目したのは、この実習記録の1つである日々の実習経験とその振り返りを記録する実習日誌に含まれる考察欄である。この考察欄は「対人援助専門職としての活動を支えるスキルの獲得」に不可欠なものであり、同時に実習期間中に実習生が最も悩みながら記入に時間がかかる実習課題である。

3. 研究の目的と方法

3.1 研究目的

本研究は実習生が取り組む上で苦勞しやすい実習日誌の考察欄の文章作成について、対話型で回答を入力していくことで、専門性を踏まえた考察文を作成することが可能なシステムの紹介と、モニタリングの結果、そして今後の改善点や教材としての有効性について示すことにある。

3.2 研究方法

実習日誌の考察欄に記入する文章(以下、考察文)として必要な要件、留意点、教科書等に記載されている文章を参考に、考察文全体の骨格を作成した。

●考察文全体の骨格

【いつ】、【場所】において【何があった】。その時、私は【何を思った】。そこで私は【何をした】。その結果、【どうなった】。この経験について、私は今日の実習目標である「【実習目標】」に基づいて考えると、【どう考えた】。何故ならば、【考えた理由】。さらに【どう考える】。これは【専門用語】に基づいて考えた場合、今回の経験からの気付きは【専門的な学び】。この気付きから、今後の実習では【どのように活かしていくか】。

この骨格の【 】の箇所を対話型の入力フォー

ムを用いて学習者が入力をするようにした。入力したデータを基に考察分を構成し、完成した考察分を出力する流れとした。検討した結果、Google社のGoogleフォームとGoogle Apps Script(GAS)を用いて作成することにした。システムは作成された考察分を学習者が指定したメールアドレスへメール本文として送信することにした。学習者はメールで受け取った考察文を基に、実習日誌へ清書をする使い方を想定した。

作成したシステムをモニタリングする協力者をソーシャルワーク教育学習者に対して縁故法で募った。システム試用後に基本属性、感想、改善点についてWebアンケートで回答を求めた。モニタリング期間は2023年3月30日から5月14日までとした。

分析方法は、自由記述回答の内容を基に分析者が意味内容の解釈を行い、分類・整理を行った。

4. 研究結果

4.1 回答者の属性

回答数及び有効回答は14人、平均年齢は34.7±10.9歳であり、学生が3人、社会人学生が11人、(内、実務経験者が7人)であった。全体としては初学者と対人援助職のベテランが混在したと言える。

4.2 試用した感想

積極的評価に該当する感想は、「授業で学んだことと実習での出来事を結び付けることができた」、「支援に関する理論と実際の現場での行動が結びつきやすい」、「自分でどのように書いたらいいのだろうと悩んだ部分が、文章化されて書きやすくなっていた」という意見であった。逆に消極的評価に該当する感想は、「完成された文章を読んでみてパズルを当てはめたような文章」、「携帯だと文字をうつのがめんどくさい」といった意見であった。数の上では積極的評価に該当する感想の方が多かった(比率、12:2)。全体的に、実習生が実習日誌の考察文を作成する上で有効なシステムであると感じたとと言える。

4.3 システムの改善点

改善点としては、文章の「接続がおかしいところがあるのでそこが改善されれば良い」や「もう少し違和感のない文章になれば良い」といった出力結果に対する指摘が見られた。次に「何をどう打ち込めば良いのか分からず戸惑う部分があった」、「記載例にできる限り沿った回答を誘導すると良いのでは」といった入力方法に関する指摘があった。入力方法という点では「全部記述式なので何択かから選択する方法を一部取り入れることで、初心者でも書きやすくなる」という提案もあった。

システム上、入力内容をそのまま定型文に埋め込んで出力しているため、実習生が入力方法に慣れ、一部に語句選択できる機能を追加することで、より自然な形での出力結果になっていくと考えられる。また「ガイドライン的な機能の方が強い」という指摘の通り、本システムが想定していた機能性は持た

せることができていたと言える。

5. 考察

実習日誌の考察文の作成支援システムを作成し、モニタリング結果から有効である可能性が示された。AIに文章を自動生成させることとの違いは、学習者の頭の中でバラバラに散らばっているイメージや言葉を、作成支援システムがどのようにまとめて文章化すれば良いのかを例示してくれるという点にある。実習が開始されて間もない段階、まだ実習日誌に書き慣れていない段階の学習者が最初の1週間程度利用することで、考察文としての「形」が分かってくるのではないかと考えられる。また日々の実習目標や学ぶべき専門性(知識・技術)を意識して実習に取り組む姿勢を涵養することにも繋がると考えられる。今回はソーシャルワーク教育での活用であったが、同じような対人援助専門職である介護福祉士、保育士等でも同じように横展開的に活用できると考えられる。また留学生によるシステムの活用も有効であると考えられる。

今回紹介したシステムは、体験した内容と専門性を結び付けて文章化するイメージをつかみ、自ら考えるソーシャルワーカーを育てるという目標を達成する可能性を十分に持っていると考えられる。今後は、実際の実習期間中の本格的運用とその成果分析をすることが課題である。

謝辞

本研究はJSPS科研費19K02977の助成を受けたものである。

参考文献

- (1) 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編:「平常時の社会福祉士養成課程におけるICT活用方法の検証に関する調査研究事業」実施報告書, 日本ソーシャルワーク教育学校連盟, 東京(2023)
- (2) 坂本毅啓, 佐藤貴之, 中原大介:「ソーシャルワーク実習における実習記録のICT活用の検討」, 教育システム情報学会第47回全国大会, pp.161-162(2022)
- (3) 厚生労働省社会・援護局福祉基盤課福祉人材確保対策室:「社会福祉士養成課程のカリキュラム」, (2020)
- (4) 文部科学省高等教育局長, 厚生労働省社会・援護局長:「大学等において開講する社会福祉に関する科目の確認に係る指針」, (2020)
- (5) 一般社団法人日本社会福祉士養成校協会実習教育委員会:「相談援助実習・実習指導ガイドラインおよび評価表」, (2013)
- (6) 一般社団法人日本社会福祉士養成校協会編:「相談援助実習指導・現場実習教育テキスト 第2版」, 中央法規, 東京(2015)
- (7) 社団法人日本社会福祉士養成校協会監修, 白澤政和・米本秀仁編集:「社会福祉士 相談援助実習」, 中央法規, 東京(2009)
- (8) 岡本榮一・小池将文・竹内一夫・宮崎昭夫・山本圭介編:「三訂 福祉実習ハンドブック」, 中央法規出版, 東京(2003)